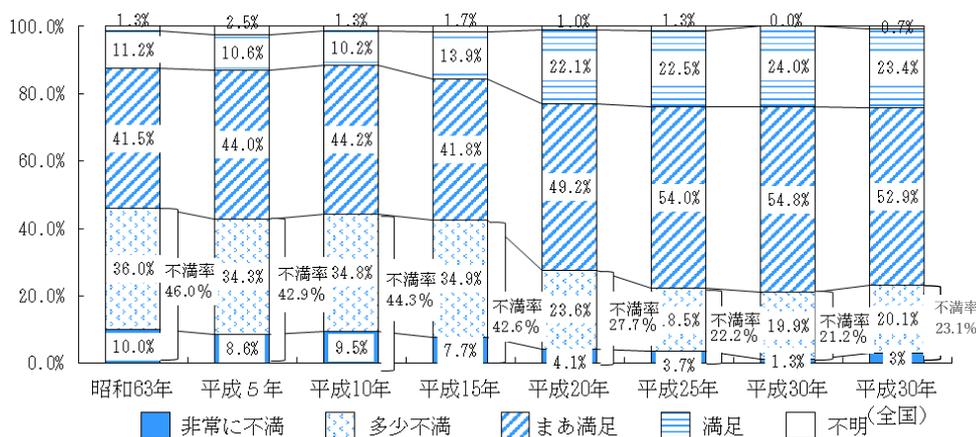


平成30年住生活総合調査結果の概要（和歌山県版）

① 住宅に対する評価

平成30年住生活総合調査における住宅に対する満足度をみると、「非常に不満」とする世帯の割合が1.3%、「多少不満」が19.9%であり、「不満率」（「非常に不満」と「多少不満」を合わせた率）は21.2%となっている。平成25年の調査では「非常に不満」が3.7%、「多少不満」が18.5%、「不満率」は22.2%であり、それぞれ2.4ポイントの減少、1.4ポイントの増加、1.0ポイントの減少となっており、不満率が減少している傾向が窺える。

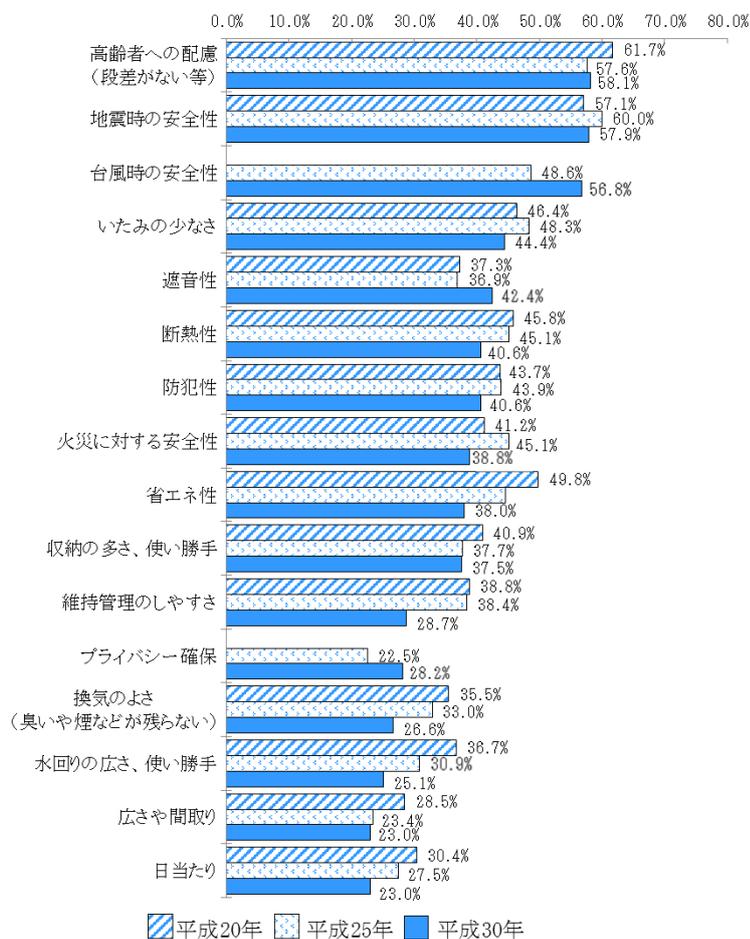
平成30年の全国調査の「不満率」は23.1%であり、本件は全国数値に比べてやや低くなっている。



住宅に対する評価

住宅の各要素に対する不満率は、「高齢者への配慮（段差がない等）」が58.1%で最も高く、次いで「地震時の安全性」が57.9%、「台風時の住宅の安全性」が56.8%となっている。また、一番不満率の低い項目は「日当たり」で23.0%となっている。

平成25年の調査との比較でみると、5ポイント以上の増減があったのは、増加で「台風時の住宅の安全性」（8.2%増）、「遮音性」（5.5%増）、「プライバシー確保」（5.7%増）、減少で「維持管理のしやすさ」（9.7%減）、「省エネ性」（6.5%減）、「換気の高さ」（6.4%減）、「火災に対する安全性」（6.3%減）、「水回りの広さ、使い勝手」（5.8%減）となっている。

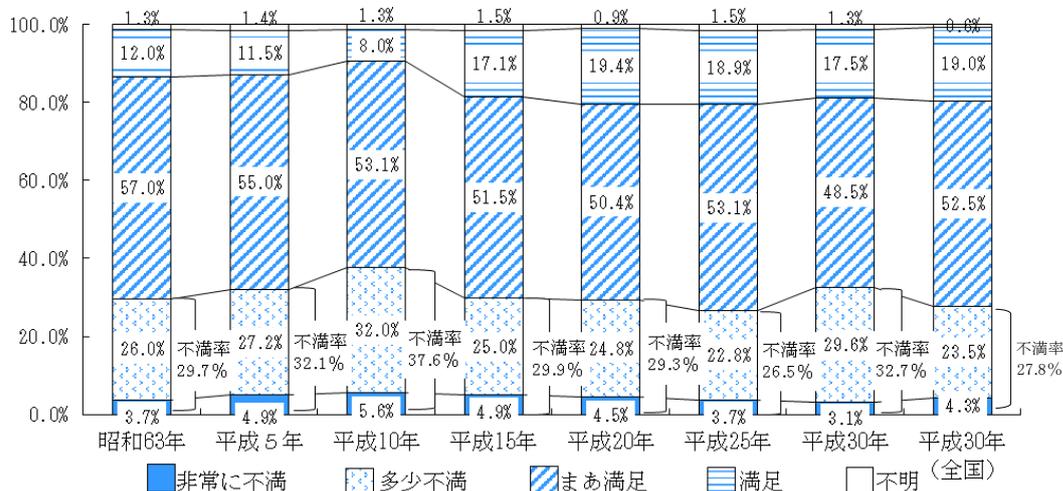


住宅の個別要素に対する不満率

② 居住環境に対する評価

居住環境の満足度をみると、「非常に不満」が3.1%、「多少不満」が29.6%であり、これらを合わせた「不満率」は32.7%となっている。平成25年の調査では「非常に不満」が3.7%、「多少不満」が22.8%、「不満率」は26.5%であり、それぞれ0.6ポイントの減少、6.8ポイントの増加、6.2ポイントの増加となっており、平成25年調査から不満率が増加している。

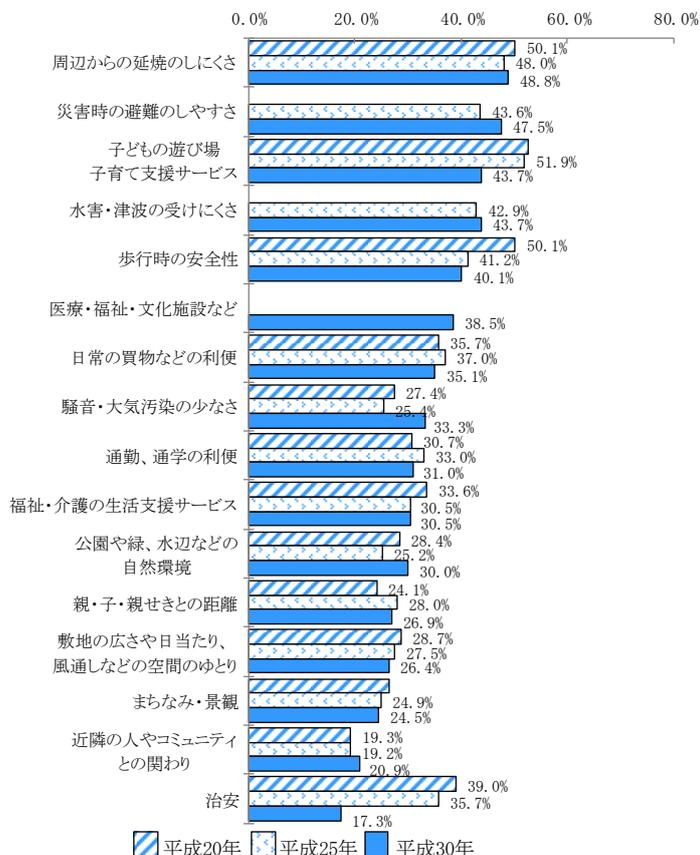
全国調査の「不満率」は27.8%であり、本県は全国数値に比べて高くなっている。



居住環境に対する評価

住居環境の各要素に対する不満率は、「周辺からの延焼のしにくさ」が48.8%で最も高く、次いで「災害時の避難のしやすさ」が47.5%、「子供の遊び場、子育て支援サービス」が43.7%となっている。また、一番不満率の低い項目は、「治安」で17.3%となっている。

平成25年の調査との比較でみると、5ポイント以上の増減があったのは、増加で「騒音・大気汚染の少なさ」（7.9%増）、減少で「治安」（18.4%減）、「子供の遊び場・子育て支援サービス」（8.2%減）となっている。

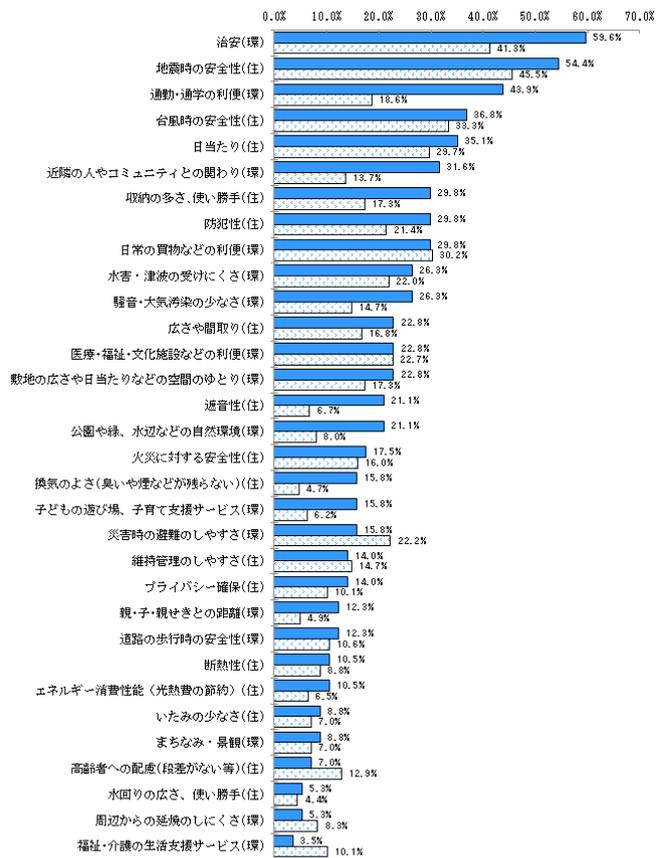


住宅の個別要素に対する不満率

③ 子育て世帯が考える住宅及び居住環境に関して重要と思う項目

子育て世帯が住宅及び居住環境に関して最も重要と思う項目を見ると、「治安」が59.6%で最も高く、次いで「地震時の安全性」(54.4%)、「通勤・通学の利便」(43.9%)となっている。

全世帯との比較でみると、子育て世帯で10ポイント以上の増加があったのは、「治安」(18.3%増)、「通勤、使い勝手の利便」(25.3%増)、「近隣やコミュニティとの関わり」(17.9%増)、「収納の多さ、使い勝手のよさ」(12.5%増)、「騒音・大気汚染の少なさ」(26.3%増)、「遮音性」(14.4%増)、「公園や緑、水辺などの自然環境」(13.1%増)、「換気の良さ(臭いや煙などが残らない)」(13.1%増)となっており、10ポイント以上減少した項目はない。

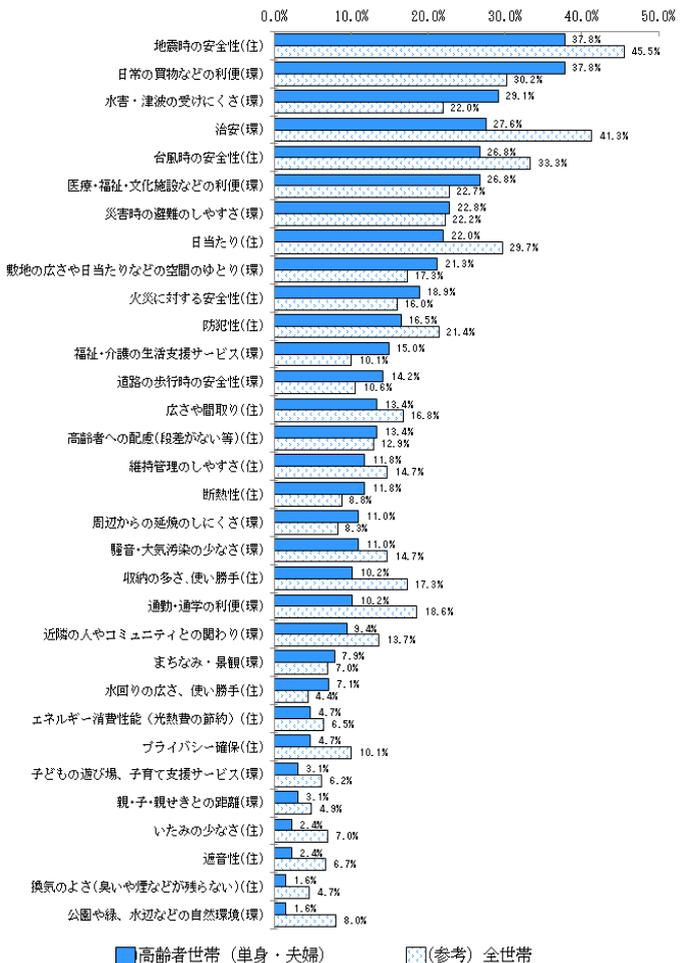


子育て世帯が考える住宅及び居住環境に関して重要と思う項目 (複数回答)

④ 高齢者世帯が考える住宅及び居住環境に関して重要と思う項目

高齢者世帯が住宅及び居住環境に関して重要と思う項目を見ると、「地震時の安全性」と「日常の買い物などの利便」がともに37.8%で最も多く、次いで「水害・津波の受けにくさ」(29.1%)、「治安」(27.6%)となっている。

全世帯との比較でみると、高齢者世帯で10ポイント以上の増加があった項目はなく、10ポイント以上減少した項目は「治安」(13.7%)となっている。



高齢者世帯が考える住宅及び居住環境に関して重要と思う項目 (複数回答)